



1 この組織で私たちのまちは守れるのか?

私は平成 19 年相模原市中央区緑が丘 2 丁目の自治会長（会員 530 世帯）に推薦され、自動的に自主防災隊長も命ぜられました。防災隊役員は全て充て職で、割り当てられ、職務も理解できず 1 年たてば終了です。さらに自治会の仕事を兼務するわけですから熱が入りません。1 年たてばすべてご破算でまた来年の新自治会長さん班長さんがゼロから始めるわけです。全てにわたり継続性がありません。この方式でまちは守れるのか？ 自問自答しました。

**【結論】この組織ではまちは守れない
専門の防災隊を作ろうと決意しました。**

2 専門防災隊の設立を目指す!

当時の班長さんと相談したところ、多数の班長さんから賛同を得ました。平成 20 年自治会総会で承認を得て 4 月に班長約 20 名と賛同者 30 名、隊員 50 名で設立できました。毎月 1 回の定例会で議論を重ね、勉強を進めていくうちに私どもの光が丘地域は大地震の際、3 本の指に入る火災に弱い地区であることが分かりました。

- (1) 昭和 56 年 6 月以前の旧耐震基準の家が多い（木密地域）
- (2) 道路が狭い
（住宅地は 4 メートル道路が中心）

- (3) 水利が悪い
併せて高齢者が多い

そこで最大の目標を初期消火対策にしました。

隊員の士気を高めるために、形からと言うことで、隊服・ベスト・ヘルメット・隊帽を全員に貸与しました。元消防士の隊員を指導者に放水訓練を定期的を実施、班ごとに消火器を設置しました。時間と共に防災隊の存在も認識され、形が整ってきました。

3 しかし、待てヨ!!…火は隣町からもやってくる「仲間を作ろう」

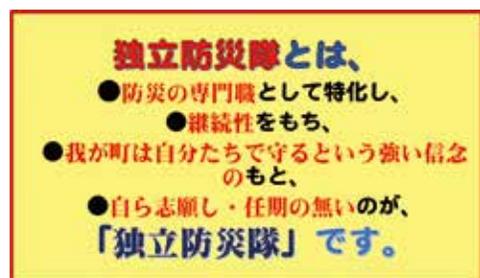
光が丘地区（人口約 2 万 8 千人）に専門防災隊を作ろうと、光が丘自治会連合会に提案し、賛同を得ました。当時は 2 隊が出来ていましたので、私どもを入れて 3 隊になりました。その後主旨に賛同して他の自治会も設立しました。

4 独立防災隊連絡協議会設立 …共助の輪を広げよう!!

現存の自主防災隊と専門の防災隊と混在するので、名称の変更を考えました。最初は自主独立防災隊でしたが⇒自主を取り独立防災隊としました。平成 25 年に 9 隊（現在 13 隊）が設立したのを期に独立防災隊連絡協議会を設立しました。規約・事業内容・会費等も整備し、地区自治会連合会の正式防災組織として認定されました。



「九都県市合同防災訓練」に参加した独立防災隊員



5 独立防災隊連絡協議会の活動 地区の防災活動の中心を担う

合同会議（年度の事業計画）、合同防災訓練の実施、避難所開設訓練、地区防災計画の作成、防災機材の共同購入（訓練用水消火器 25 台、デジタル無線機 72 台、簡易トイレ 7 万枚、スタンドパイプ放水機具 7 台等）、各種講演会の実施等全体のレベル向上に努めております。特に市より配布され D 型ポンプ放水機 4 台を地区全体に使えるよう幅広く活動しています。



地区 5 会場で防災訓練同時開催



独立防災隊連絡協議会の合同訓練

6 人材育成(防災マイスターの育成)

相模原市では防災士を育成して、資格取得者を防災マイスターとして認証しており、市全体で 200 名の内、光が丘地区には 28 名の登録者がいます。地区の組織の要で活躍中です。また光が丘地区防災マイスター会を設立して年数回の研修を行い、特にデータベースの共有化は進んでいます。

7 さらに先を目指して ⇒備えこそ防災・減災の道

究極の活動「自助」運動の推進、(仮称)「避難所開設エキスパート養成組織」を立ち上げ、火は他の地区からも来る…「他地区との連携」、「女性の力と高齢化対策」等様々な課題に取り組みます。

